

4) 以上に述べた傾向が、著しい大雨の可能性を示す場合、地上前線が、中国地方に接近し、停滞または移動するとき、顕著な大雨になりやすい。

5) 雨量分布と大雨日の0時における2流線の位置との間に次の傾向が見られる。2流線が南偏したときは、山口県を中心とした中国地方西部で雨量が大きく、北偏するときは、雨量の最大域も北偏しやすく(3例を除く)、とくに流線が北東に偏るときは、山陰東部から広島県北東部にかけて雨量が大きい。(第4表)

5. むすび

梅雨期の大雨予想において、最も重要なことは、南北

両気流の干渉と収斂の状況であり、予報を行う順序として、第一にこの問題に関すると思われる項目を採り上げたかった。

本調査は、太平洋高気圧と、満洲方面から南にのびる trough の状態によってもたらされる confluence により、強められた jet 流に関連しており、非常に単純化した方法を用いて、南北両気流の西日本上空での合流の様相が、中国地方の梅雨期における、最大日雨量 150mm とか 200mm 以上におよぶ顕著な大雨に対して、重要な役割を持つことを確めた。

なお、この調査に当り、御指導ならびに有益な御助言をいただいた、藤本予報課長、山本予報官に厚く御礼申し上げます。

質疑応答欄

測器の取扱いに関する質問

西目農業高校気象部

佐々木 三郎

左記事項についてお教え願えませんでしょうか。

実は私共の学校は日本海岸沿いの砂丘地の砂防林の中に在り(海岸への最短距離は500米です)塩風、雨水中の塩分のためだと思っておりますが、測器の金属部分が1年位で腐蝕してしまい困っています。1年前に産業教育振興法の補助で買って貰ったロビンソン風速計のギヤの部分も真鍮製のギヤはよいのですが、ジュラルミン(アルミ?)の枠は中まで(塗料はすぐにはげてしまい)1年で腐蝕されてしまいまして、それで3月程前オーバーホールしてもらい塗料も塗りなおして貰ったのですがもう塗料がはげはじめております。

これは1例で、この他に自記雨量計、自記温度湿度計、アネロイド、風信器等この例にもれず危機に瀕しております。海岸地方や島の測候所、観測船などではこの塩害にどのように対処しておられるのでしょうか、またどのような手入れをしておられますでしょうか、御教え願えませんでしょうか。

降雨中(塩風中)の塩分については、ぜひ調査しなければならぬと思っておりますが、その測定法ごとに風によって運ばれる塩分の測定法も出来ましたらお教え下さい。右はなほだ我尽なお願いを申上げ恐縮に存じますが何卒よろしくお願い致します。

回答(測器の取扱いについて)

海岸地方に設置する気象測器の腐蝕の問題は、気象官署でも頭をなやましていることです。

塩分に対する耐蝕性のないアルミニウム等をもって作られた測器は、姑息な手段では到底その保守の完璧は期し得ないと思われます。

気象官署で用いる測器は、すべて黄銅系統の材料を用いるか、又はそれと同等の耐蝕性をもったものを使用することにしております。どうしてもアルミニウムのような軽い物が必要であるときは、耐蝕性アルミニウム合金をかみならず用いることになっております。

このようにいたしましても、海岸や船舶等で使用する場合は、半年に1度は点検して手入れをするし、又少なくとも1年に1度はオーバーホールをしなければ完全な保守は出来ません。

結局気象官署においても、測器の腐蝕の問題は、その材料を吟味すること、まめに手入れをすることで、対処しているのが現状です。大気にさらす必要のない部分はポリエチレンの袋等で覆ってやることも一方法ですが、決して完全なものとはいへませんので、まめに手入れや塗り換え等を行う以外に手がないように思われます。

今後気象測器を購入される場合は、予算の許す限り、耐蝕性のある材料を使用した良品を入手されるのが結局は有利な方法です。(塩分の測定法については次号に掲載します)

☆

☆

☆

☆

☆

☆